

高速増殖原型炉もんじゅ 性能試験(炉心確認試験)
 実施状況

13:00現在

概要
 放出放射性物質挙動評価を安全に実施している。

プラント 状態	異常なし。 原子炉停止中。 1次主冷却系流量 約10%(ポニーモータ運転) 1次主冷却系温度 約200℃ 2次主冷却系流量 約 7%(ポニーモータ運転) 2次主冷却系温度 約200℃	備考
------------	--	----

性能試験 実施状況	【昨日(6/30)の実施状況】 なし 【本日の実施状況】 9:15 放出放射性物質挙動評価 13:00終了 【明日(7/2)の予定】 放出放射性物質挙動評価を実施する。	備考
--------------	---	----

その他	・次回の原子炉の起動は 7/7 を予定している。 ・排水モニタ故障警報の発報について	備考
-----	---	----

炉心確認試験工程

		24日(木)	25日(金)	26日(土)	27日(日)	28日(月)	29日(火)	30日(水)	1日(木)	2日(金)	3日(土)
性能試験 工程	プラント操作を 伴う試験										
	プラント操作を 伴わない試験										
										⑮放出放射性物質挙動評価	



平成 22 年 7 月 1 日

このお知らせは、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ
排水モニタ故障警報の発報について

1. 発生日時 : 平成 22 年 7 月 1 日 (木) 2 時 25 分頃
2. 発生場所 : 高速増殖炉研究開発センター
高速増殖原型炉もんじゅ 排水モニタ室 (非管理区域)

3. 状 況 :

高速増殖原型炉もんじゅ (定格出力 28 万 kW) は、現在、低温停止中のところ、7 月 1 日 2 時 25 分頃、「排水モニタ故障」の警報が発報しました。中央補助盤を確認したところ、2 系統ある排水モニタ*¹のうち、B 系統のサンプルポンプが停止していました。排水モニタの A 系統は、正常に運転を継続していることを確認しています。

現場の排水モニタ室において確認したところ、排水モニタ B の「ストレーナレベル高」警報が発報していました。

警報発報の原因は、ストレーナ出口配管の空気抜き孔が異物 (海草類) により一時的に閉塞し、配管内に空気だまりが生じたため、ストレーナからの排水の流れが悪くなり水位が上昇したと推定されました。このため、同日 2 時 48 分に排水モニタ B のサンプルポンプを再起動し、排水モニタ B の放射能の監視機能は復帰しました。

排水モニタは、A、B の 2 系統を常時運転しているため、1 系統が停止しても、排水中の放射能の監視機能は維持されています。

なお、本事象による環境への影響はありません。

* 1 : 施設内より系外 (環境) へ放出される排水中に含まれる放射性物質濃度を把握するため、施設外への排水の最終端である放水口における排水中の放射性物質濃度を連続監視するもの。

添付図 : 排水モニタ系統図

以 上

